

日本フォーラムが大盛況

第4回シンガポール国際水週間 112カ国、1万4000人が参加

アジアで最大級の水関連イベントである、シンガポール国際水週間(SIW)が4日から7日までシンガポール・サン

テック国際会議・展示場で開催された。4回目となる今回のテーマは「新たな都市環境を目指す持続可能な水問題の解決



日本パビリオンを訪れた森元首相を囲む日本関係者(左から吉村代表、森元首相、竹村事務局長、水谷水ing副社長)

策。リークアンユー水大賞、ウォーターリーダーサミット、ウォーターEXPO、各国のビジネスフォーラムなど多様な行事が行われた。年々規模を拡大するSIWWは、アジアの経済発展と人口増加を支える水ビジネスの隆盛の象徴となっている。

初日の開会式では、タマン副首相兼財務・人材大臣が、15000人を超える各国からの参加者に対し「シンガポールは水問題に悩まされてきたが、それを克服するため、世界中の水の専門家に呼びかけ、解決策を模索してきた。『水問題解決は国家の存亡』であり、水資源は国家発展の礎である」とをモットーにシンガポール政府は、先進国の水インフラ技術を導入し、国内はもとより世界の水問題を解決してきた。4回目を迎えるSIWWの場においてさらに多くのグローバルネットワークが構築されることを期待している」と述べた。今回の登録参加者は世界112カ国より1万4千人を超え、また、シンガポール公共事業庁(PUB)の発表によると昨年のSIWW期間内の成約総額は2千億円を超えている。

12カ国が参加した東南アジア閣僚会議では、日本水フォーラム会長でもある森喜朗・元首相が「日本が世界に果たす役

割」を述べ、各国の賛同が得られた。続いて行われた世界水産業界リーダーサミットでは、世界各国から350人以上のリーダーが参加、ガバナンス、革新的な技術開発、健全なるファイナンス戦略などが話し合われた。



9人のパネリストによる討議(ジャパンビジネスフォーラム)

昨年から併設されている「世界都市知事・市長サミット」では18カ国から28市のトップが集まり「持続可能な成長に向けての水インフラの果たす役割」が話し合われ、都市化に対応する水インフラのあり方について「横断的な知的ノウハウに関するプラットフォーム創生」が提案がされた。ウォーターコンベンションでは、50カ国、1200人を超える専門家から428編の研究発表がなされた。

また、同時に開催されているウォーターEXPO会場では、世界各国から600社以上の出展があった。国際的なパビリオンを開設している国はシンガポール、日本、中国、韓国、台湾、オーストラリア、ベルギーなど14カ国であり、特に日本パビリオンが注目を集めた。日本パビリオンでは、水ing、日立製作所、メタウォーター、横浜水道局、東京都水道局、チーム関西、北九州海外水ビジネス推進協議会など27団体がブースを構え、個別ブースでは、旭化成、日東電工、東レが大規模ブースを構え、その技術内容をPRした。森元

首相はすべての日本関連ブースを回り、各社の展示内容の説明を受けるとともに係員を激励した。

6日に開催された今回の日本勢の目玉である「ジャパンビジネスフォーラム」では、竹村公太郎・日本水フォーラム事務局長の開会挨拶の後、昨年引き続き共同議長を務めた吉村和就・グローバルウォーター・ジャパ代表が「日本の海外水ビジネスへの参入動向」を述べ、その後2編の基調講演が行われた。北橋健治・北九州市長は「官民連携による海外水ビジネスへの取り組み」で北九州市の公害克服の歴史を踏まえた今後の戦略を語り、日本国際協力銀行(JBIC)の星文雄・取締役は「PEEP、官民連携によるファイナンスパートナー構築」で金融界の果たす役割について講演した。

その後、9人のパネリストにより日本の海外水

ラのあり方について「横断的な知的ノウハウに関するプラットフォーム創生」が提案がされた。ウォーターコンベンションでは、50カ国、1200人を超える専門家から428編の研究発表がなされた。

また、同時に開催されているウォーターEXPO会場では、世界各国から600社以上の出展があった。国際的なパビリオンを開設している国はシンガポール、日本、中国、韓国、台湾、オーストラリア、ベルギーなど14カ国であり、特に日本パビリオンが注目を集めた。日本パビリオンでは、水ing、日立製作所、メタウォーター、横浜水道局、東京都水道局、チーム関西、北九州海外水ビジネス推進協議会など27団体がブースを構え、個別ブースでは、旭化成、日東電工、東レが大規模ブースを構え、その技術内容をPRした。森元

ビジネスへの取り組みに
ついての討議がなされ
た。オリビア・ラム・ハ
イフラックスCEOから
は、JBIC、日揮、三
井物産、日立など日本の
企業や機関と多くの取り
組みを展開してきた経験
を踏まえ、日本はハート
ナッシュプを大切に、相
手国のニーズを的確に捉
えスピード感を持って海
外水ビジネスに取り組む
べきと提案した。2時間
以上にわたるフォーラム
は、立ち見が出るほどの
盛況だった。

吉村代表 撮影 (参考)

